

夏休みまでをどのように過ごしたらよいか

—まずは受験生としての自覚を持とう—

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。

7月に入り、いよいよ夏休みを迎えます。今日は、受験生つまり中学3年生や高校3年生の皆さんの夏休み前の過ごし方について少しお話をさせていただきます。

2. 夏休みまでをどのように過ごしたらよいか—まずは受験生としての自覚を持とう—

(1) 今月は部活動の地区大会などがあるでしょうから、試合への参加は最後までやっていただきたいと思います。ただ、皆さんには、部活動のほかに、大事な大事な高校入試や大学入試が来春の1月・2月・3月に控えています。入試までは、あと半年余りしか時間がありません。そこで、どのように準備をしたらよいか、特に夏休みを迎える前に何をしたらよいかについてお話します。

(2) 夏休みになったら、「本格的に自分は受験生である」という自覚を持つと、よい受験勉強のスタートとなります。この時期に一番やってほしいことは、受験生としての自覚を持つことです。「夏休みは受験の天王山」と言われます。夏休みをどう過ごすかによって、希望する学校に合格できるかそうでないかが決まってしまうからです。

(3) 最も大事なものは心構えです。夏休みに入る前までに受験生としての自覚がはっきり持っていると、夏休みになったら勉強するだけです。非常によいスタートが切れます。

(4) 自分は受験生であるという自覚がなかなか持てないと、夏休みになってもダラダラと過ごしてしまいがちです。ほかの受験生は勉強しているのに、自分だけはあまりやらないという状態になってしまいます。ただし、やらないのは自分だけではなく、ほとんどの人があまりやらない。はっきりともう少し具体的にお話すると、夏休みまでに受験生としての自覚を持つ方は少ないですから、その少ないグループに一日も早く入ってしまうのがよいのです。少ないグループに一日も早く入るためには、今の時期に受験生としての自覚を持ち、夏休みに入ったらラストスパートを

かけるくらいのつもりで勉強するとよいと思います。夏から本気になれば、いくらでも間に合います。

(5) 受験生としての自覚をはっきり持つにはどのようにしたらよいかというと、それは5つあります。その1つは、高校や大学など上の学校に進学して何を学ぶのか・何をするのかをはっきりさせることです。高校に行ったら何をするのか、大学に進学して何を学ぶのかをはっきりさせることが大事だと思います。

(6) 2つ目は、高校卒業後・大学卒業後・短期大学卒業後・専門学校卒業後はどうするのかをはっきり考えることです。高校卒業後に上の学校に進むのも1つの進路であり、就職をするのも1つの進路です。そして、大学・短期大学・専門学校を卒業したあとは、また上の学校に進学するのか、それとも就職をするのかについてもよく考えたほうがよいと思います。

(7) 3つ目は、自分は社会に出てからどのような人生を送るのか・どのような一生を歩みたいのかを考えることです。その中には、どのような仕事に就きたいのか・どのような社会的活動をしたのか・どのような趣味を持ちたいのかなども含まれます。

(8) 4つ目は、実際にどこの高校・大学・短期大学・専門学校に進学したいのか、その名前を具体的にはっきりさせることです。そうすれば、受験生としての自覚をはっきりと持つことができます。

(9) 5つ目は、このような形で、上の学校に進学して何を学ぶのか・何をするのか、卒業後はどうするのか、どのような一生を歩みたいのか、どこの学校に進学したいのかがはっきりしたとしても、進学したい高校や大学などに合格できる学力、具体的に言うと合格できる偏差値があるのかということです。

(10) 大概の高校や大学などでは、このくらいの実力があれば合格できるというものが、偏差値という形で示されます。自分の現時点の偏差値が50であるのに、行きたい高校や大学などの偏差値が60ないと受からないという場合は、偏差値が10不足しているわけです。ですから、自分の進学したい学校と自分の今の実力とにどのくらいの差があるのかをはっきりさせることが大切です。そして、その差を埋めるために今年の夏は頑張るんだというようになると、非常によい勉強ができます。

(11) 繰り返しになりますが、夏休みから自分は受験生であると自覚することが合格の第一歩です。受験生としての自覚を持つためには、高校や大学などに進学して何を学ぶのか・何をするのか、

高校や大学などを卒業後はどうするのか、どんな一生・人生を歩みたいのか、どのような仕事や社会的活動をしたいのか、具体的にどこの高校や大学に進学したいのかを、この時期によく考えてはつきりさせることが大事です。加えて、ただ行きたい行きたいと言うだけでは合格できませんので、行きたい学校の合格レベルと今の自分の実力とにはどのくらいの差があり、それを埋めるにはどうしたらよいかを自分自身でよく認識することが大事だと思います。これが、受験生としての自覚です。

(12) この受験生としての自覚がきちんと持てると、夏休みにしっかりとした勉強ができます。これがあやふやだと、夏休みになっても一体私は何をしたらよいのだろうとゼロから考えなければなりません。夏休みの 40 日間を悩んで悩んで、悩むことに時間を使いすぎて、受験勉強らしいことは何もしないまま過ごしてしまうことになります。

3. おわりに

夏休みは受験の天王山です。受験生の皆さんは、今から受験生としての自覚が持てるように、夏休みまでの間を過ごしていただきたいと思います。

夏休みまでは 2～3 週間となりましたので、今日は「夏休みまでをどのように過ごしたらよいか、まずは受験生としての自覚を持とう」というお話をさせていただきました。